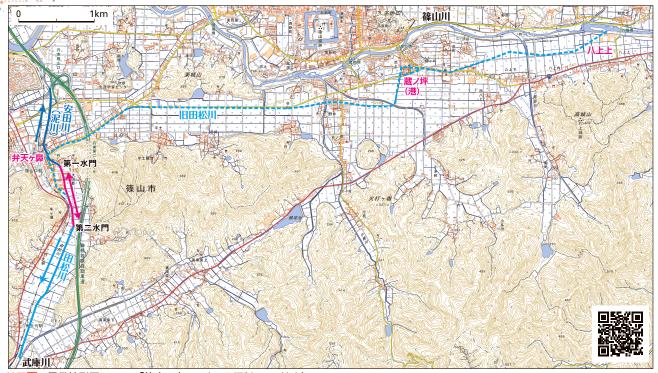
日本縦断地理院地図の人

第1回「舟運が生んだ川中分水界~兵庫県丹波篠山市~」



地図1 電子地形図 25000「篠山」(2019年3月調製,50%縮小)

旧田松川の流路は,2万5千分1地形図「篠山」(大正12年測図)・「福住」(大正9年測図)より推定した。

1. 不思議な 2 つの矢印

兵庫県丹波篠山市*を流れる田松川を地理院地図(地図1)でたどると、川に沿って北向きの矢印と南向きの矢印が描かれていることに気づく(地図2)。 兵庫県北部では、「石生の水別れ」など標高の低い谷中の分水界を多くみること



地図<mark>2</mark> 田松川の川中分水界 (2019年3月20日調製)

ができるが、ここでは1つの河川の中に分水界が存在している。なぜ、このような分水界が生まれたのだろうか。

2. 田松川の舟運

田松川は、舟運を目的として明治7年(1874年)に 当時の豊岡県により作られた水路で、新川とも呼ばれた。 田松川は、丹波篠山市八上上で篠山川から分流して水田 地帯を西進し、弁天ヶ鼻で北向きに篠山川方面へと流れ る泥川と交差して南下、その下流で武庫川の上流へと合 流していた。蔵ノ坪に設置された港から米、薪炭、茶、 松茸などの物資が田松川を通して三田方面へと運ばれた が、陸上交通と比較して遠回りでコストがかかり、流量 も安定せず、4年あまりでその役割を終えた。

3. 舟運廃止と圃場整備により生まれた分水界

弁天ヶ鼻では、篠山川に向かい北向きに流れる泥川の上を、武庫川に向かい南向きに流れる田松川が跨いで交差していた。しかし、舟運廃止後は荒廃し交差地点の掛樋が崩落したため、田松川は泥川と合流し篠山川へと流れるようになった。その後、田松川は灌漑用水へと姿を変え、八上から弁天ヶ鼻までの区間では流れが分断され、港跡(写真1)以外では舟運の名残りは失われた。

一方、泥川(現在は安田川と呼ばれる)と、田松川の 弁天ヶ鼻より下流の武庫川方面への流れは圃場整備によ り1つに結ばれた。現在は、田松川の途中に第一水門と 第二水門が設けられ、2つの水門の間に川中分水界が存 在するという、全国的にも珍しい地点となっている。

